

講座 ころの友伝道入門シリーズ 9

五つの実際 その一

「ころの友伝道奉仕者の資格」



日本キリスト教団
新宿西教会
(東京)

ふかやみかこ
牧師 深谷美歌子

＜ 資格の三つの柱 ＞

1. 忠実な教会員であること
2. ころの友伝道のために使命を感じることに
3. 福音の恵みに共に与かる姿勢をもつこと

愛する者たちよ。神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互に愛し合うべきである。（ヨハネ第一の手紙 4：11）

それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいの事を守るように教えよ。

（マタイ 28:19、20）

ある伝道者が、一度目の開拓伝道に失敗し、弟子化の学びの後、キリストの弟子として生きる事を決心しました。それは互いに愛し合うことだと示され、その事に心を注いで二度目の開拓伝道をはじめました。まずは奥さんを愛し、子供たちを愛し、地域の人々を愛することに徹したそうです。そこから幼稚園で知り合ったお母さん、幼稚園の先生が救われていきました。

イエス様が私たちの罪の責めを全部負って、解放を与えて下さった。ころの友になったお互いはこの愛に包まれて生き始めた仲間ですね。「互いに愛し合い、赦し合いなさい。」これがころの友伝道者のベースで資格です。

ころの友伝道の手引きには、この頂いた愛の命を生きる、具体的な導きが記されています。愛し合う命をどう生きていきたいですか？とお祈りした後、テキストに聞くと、具体的な導きが記されていますから、「はいわかりました。」と具体的に歩みを初められます。先に記した先生が最初の開拓伝道で失敗したのは、この順序が逆だったのです。五つの実際をまず守ることが先だと思い、兄弟姉妹に求めて疲れたのです。

この命に繋がりに続けるために、以下のことに聞きましょう。

① 忠実な教会員であること。

○礼拝で生かされ ○祈禱会で主と結びつき
○献金を喜んで捧げ ○奉仕を喜ぶ。すると生ける主を経験するのです。とは言え、いつもパツと神様の恵みが現れると感じられないかもしれません。しかしこつこつ忠実に主に仕えている方は「神様素晴らしい」と証しされる方になるのを見てきました。

② ころの友の使命に気づきましょう。

エレミヤはその時代に生かされて、召命を頂いたとき、しり込みしましたが、私達もこの終わりの時代に生かされていることをまず認めましょう。神様が福音を伝えるために召してくださいと。光栄ある使命です。

③ 福音の恵みを共有する姿勢で。

福音は、受けたら完結しているものではありません。追い求め続けていくものです（ピリピ 3：12）。自身の弱さを知らされ、それが赦さ